

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 2月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2871200370		
法人名	特別医療法人 敬愛会		
事業所名	三田温泉シルバーホーム		
所在地	兵庫県三田市東山897-1 (電話) 079-568-5260		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	平成20年2月8日

## 【情報提供票より】(19年12月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.37人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	5階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~55,000円	その他の経費(月額)	15,000円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		970円

### (4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.2歳	最低	76歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三田温泉病院
---------	--------

## 【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは三田市街地から車で約15分、やや高台の自然に囲まれた静かな環境に位置している。事業所内は広くゆったりとしており、これから空きスペースにソファ等配置し、利用者の過ごしやすい共用空間作りに取り組む予定である。母体の特別医療法人「敬愛会」の病院と老人保健施設に併設して作られており医療面でのバックアップはあるが、近くに民家はなく、日々の暮らしの中で地域住民と交流することは立地条件上難しい。地域交流にも取り組む予定であり、今後の実践が期待される。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)</p> <p>まずは、地域密着・地域生活継続を意識した理念に変え、職員の意識を変えることから始めている。個別ケアに向けての記録の充実、食事作りへの参画、家族とのコミュニケーションを深める取り組み、地域住民へのホーム機能の還元等、改善方針は定まっているので、今後の取り組みが期待される。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)</p> <p>管理者・リーダーが評価を行い、その内容について職員に意見を求める方法で行われたため、職員個々に理解が深まっているとはいえない。評価は職員一人ひとりが行い、結果について意見を交換し合う過程の中で、改善点について共通認識をもち、ホーム全体で取り組むことが望まれる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)</p> <p>参加委員の声を積極的に取り入れ、サービスの質の向上に繋げるようにしている。戸外での食事や、地域の夏祭りへの参加は、利用者にも好評だった。またメンバーとして三田市の担当職員が出席しており、行政との連携もスムーズに行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)</p> <p>入居時や入居後も、意見や苦情を出して欲しいと説明している。また面会時には、家族から感想や意見を言いやすいよう雰囲気作りを意識している。しかし、利用者の自治会を組織したり、家族会の開催する等、より積極的に意見を吸い上げ、ホームの改善に繋げるような試みはなされていない。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)</p> <p>地域の小学校との交流や、地域の夏祭りへの参加はしている。高台にあり、近くに民家がない立地条件のため、日常的な地域住民との交流は難しく、できていない。機会を捉え、地域住民との交流を図るべく努力している。今後はイベント的な交流だけでなく、日常的に地域住民との交流が図れるよう、今以上に積極的な取り組みが期待される。</p>

## 2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	19年11月、「地域密着・地域生活継続」を今まで以上に意識し、家庭的な環境・地域住民との交流・個性尊重・馴染みの関係を柱に置いた理念に変更した。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識し、理念実現に向け、意識向上を図っている。		日々のサービス提供場面で新しい理念を反映できているかどうか、ミーティング等で職員全体で話し合いを繰り返し、理念を具体化していくことが望まれる。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	本庄小学校3年生が学期ごとに訪問、音楽会には招待を受ける等、地域の小学校と定期的な交流がある。また運営推進会議メンバーの民生委員の誘いを受け、地域の夏祭りにも参加した。機会を捉え、地域住民との交流を図るべく努力している。		高台にあり近くに民家がないため、日々の暮らしの中で、地域住民と触れ合う機会はほとんど無い。今後はイベント的な交流だけでなく、日常的に地域住民との交流が図れるよう、今以上に積極的な取り組みが期待される。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に際して、管理者・リーダーで評価を行い、その内容を職員に回覧し、意見を求めた。自己評価実施後の具体的な改善点について、管理者からは熱心な意見を聞くことができた。		管理者・リーダーは意義を十分に理解し、積極的に評価結果を活用しようとしているが、職員間で評価項目にそって十分に話し合い振り返ることで、より有効となるので今後の取り組みが望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加委員の声を積極的に取り入れ、サービスの質の向上に繋げるようにしている。戸外での食事や、地域の夏祭り参加、遠足の行き先等、アドバイスを受けて行った行事は、利用者にも好評だった。		
6	9	市町との連携  事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、三田市の担当課長が出席しており、現状を把握してもらい、相談にもものってもらっている。また事業運営上で課題や問題があれば、市役所に出向き協議し、共によりよいホーム作りを目指している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、時間をかけて日々の様子を報告しているが、訪問の少ない家族には、十分な説明はできていない。金銭管理については、残額の連絡だけでなく、支出の内訳や今後の支出予定も合わせて知らせていこうと考えている。		平成20年春にはホーム便り第1号を作成し、すべての家族に送付するとともに、より詳細な金銭出納状況の報告を行う予定である。
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時や入居後も、意見や苦情を出して欲しいと説明している。また、面会時には、家族から感想や意見を言いやすいよう働きかけをしている。		利用者が自分達で決めてよいと思える場としての自治会の設定や、意見や苦情についての検討結果やその後の対応などを伝える機会としてホーム便りの作成、家族会開催が望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「馴染みの関係」をモットーとしている。やむを得ない職員交替や退職がある場合、おおむね一ヶ月の引き継ぎ期間をとり、利用者を与える影響を最小限に抑えるようにしている。		家族がホームを訪問しないと異動が分らないので、タイムリーに連絡する方法の検討が望まれる。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修やトレーニングの機会はあるが、外部研修への参加の機会は少ない。		地域密着型サービスでは、従来以上に、個別対応や柔軟な支援が求められている。実践力を身につけていくため、働きながら学べるよう、常勤・パートを問わず、経験や習熟度に応じた学びの機会を計画的に確保することが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内3カ所のグループホームとは、情報交換や交流ができていない。現在、市内のグループホームと連絡会の立ち上げを検討中であり、市にも相談しつつ、春頃を目途に市内グループホーム管理者が一度集まる予定である。		同業者との交流・勉強会を通して、より一層のサービスの質の向上が期待される。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込時は、本人・家族に来てもらい、ホームの雰囲気に馴染んでもらっている。本人の気持ちや悩みを聞き、心理的不安を少しでも解消するよう努めている。今後必要なら、宿泊体験も実施する方向で考えている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「馴染みの関係」をモットーとし、教え、助け合う関係を築いている。支援する側、される側という意識を持たず、和やかに生活できるよう声かけをしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で、利用者の表情や言葉、言語の強弱等を感じ取り、何がしたいのか、何を思っているのかを、汲み取るようにしている。把握が困難な場合、ご家族や関係者から情報を得たり、利用者の立場にたって、気持ちを考えるようにしている。</p>		
<b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメント様式をセンター方式に変え、全職員で記入した。本人の意向を反映した暮らしを支援できるよう、本人・家族・関係者の希望を聞き、全職員で意見を出し合って作成している。</p>		<p>連絡の取りにくい家族への説明や意見の聞き取りが十分にはできていない。個々の家族にとって一番望ましい連絡方法で連絡をとり、家族の意見を反映できるようにすることが望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>通常は3～6ヶ月ごとに介護計画の見直しをしている。また、利用者に変化があった場合は必要に応じて随時見直しをしている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者・家族の個々の状況変化に応じて、柔軟に対応していきたいという姿勢はあるが、介護保険内のサービスに留まっている。</p>		<p>併設病院がある上に、医療連携体制をとり朝夕訪問看護師による健康管理が行われている等、医療に関して手厚い状況である。終末期にむけた対応や、医療処置を受けながらの生活の継続・入院回避の取り組みなどが期待される。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と相談し、どの病院で受診するかを決めてもらっている。三田市内の方は、かかりつけ医に継続して通院されている方もあるので、直接病院と連絡をとっている。他の方は併設病院で受診している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期について、「前もってできるだけ早い段階で」を心がけて、主治医や家族と話合っている。今のところ、終末期を看取った例はない。併設の病院に転院された場合、入院後も家族と連絡をとったり、ご本人に会いに行ったりしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員採用時には、守秘義務や個人情報保護の徹底について研修している。また採用後も、業務中にプライバシーを損ねるような言動・行動がないか、管理者やリーダーが目配り・指導をしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして大まかな一日の流れはあるがそれにとらわれず、利用者のリズムや都合を尊重し、その人の一日が穏やかで活気のあるものになるよう、さりげなく裏方に徹して支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は併設施設の厨房で行われ、炊飯のみホームで行っている。盛りつけ、配膳は利用者・職員で行い、後片付けに関しては、利用者は下膳のみ行っている。職員は献食で一人が、利用者と一緒に食事をしている。月2~3回の調理実習・おやつ作りの時に、利用者の希望を取り入れるようにしている。		ホーム内での調理回数を増やすことが難しくければ、食べたいものについて話し合う機会を設け、献立に取り入れてもらう、職員も利用者と一緒にお喋りをしながら、ゆっくり食事をする等、より食事を楽しめる取り組みが期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外の毎日入浴可能である。大半は週3回の決まった日に入浴しているが、本人希望で毎日入浴している人もある。時間帯は午後に限られているが、入浴時間や入り方は本人の希望に合わせている。		曜日・時間帯を問わず、本人の意向に添った入浴ができるようなれば、より良いのではないか。
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その方の今までの生活歴や仕事を知り、一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけるようにしている。編み物や花・野菜作り等、力を発揮できる場面を作っている。		利用者の高齢化に伴い、入居当時できたこともできなくなっていると考えられるが、重度化しても状況の変化に応じて、できることを具体的に見極めながら、いつまでも役割を持ち、仕事を通して達成感・満足感が得られるよう、作業過程を丁寧に見直し力を発揮できる場面を提供する等の支援が望まれる。
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	高台にあり、近隣には民家もない立地条件のため、徒歩での日常的な買物等の外出は難しく、外出は月に数回しかできていない。また、その行き先も、一人ひとりの希望に添うというよりは、職員の意向で決めてしまっていることが多い。		例えば干し柿を作るための柿をもらいに行く、黒豆を取らせてもらう等積極的な働きかけで交流のきっかけ作りをし、近隣の農家・畑に遊びに行くことも含め、行き先や時間帯を固定せず、柔軟な対応で、外出する機会を増やすことが望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は24時間、玄関先は日中、鍵をかけていない。利用者が外に出ようとしたときは、制止をせず、さりげなく声かけをし、一緒に外へ出て散歩したり、花壇を眺めたりし、自由な暮らしを支えるようにしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	地域の民家とは離れた地域にあり、法人の他施設と一緒に、年に2回、消防避難訓練を行っている。記録も残している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	食事量や水分量を個々に記録し、職員全員が共有できるようにしている。必要時は、併設介護施設の管理栄養士や協力医療機関の看護師に相談しアドバイスを受けている。併設施設で調理した食事ではあるが、食べ方に合わせた調理方法、嗜好に合わせた飲み物を勧める等、個別対応がなされている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者が不快な気持ちにならないよう、音、光、におい、温度等を常に意識し配慮している。また、ホーム内の装飾も季節感のあるものになっている。		廊下や、柱の陰に、広い殺風景な空間があり、家庭的とは言い難い。一人や少人数で過ごせるようなスペースとして活用されることが期待される。
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	入居時や入居後も馴染みの家具や物の持ち込みを依頼しているが、衣装ケースやホームで準備しているベッド等で居室作りをしている方が多い。		入居時だけでなく、入居後も時には職員も一緒に自宅を訪問し、ご本人やご家族と相談しながら、愛用していた物やお気に入りの物を持って来る等、居心地の良い居室づくりへの積極的な取り組みが期待される。

 は、重点項目。